

## 太田竜のエコロジー運動にみるコンスピリチュアリティ (パネル: コンスピリチュアリティ研究の課題と展望)

栗田英彦 (castanea1127@gmail.com)

### はじめに

- ✓ 太田竜 (1930~2009) : 新左翼党派 = 革共同創始者 (50 年代) → 全共闘運動 (60 年代後半) → アイヌ独立・辺境革命論 (70 年代) → エコロジー・動物実験全廃運動 (80 年代) → 陰謀論 (90 年代以降)
- ✓ 太田竜のスピリチュアルなエコロジー運動がいかに陰謀論に至ったか。

### 1. 辺境革命論から「自然発生的決起」へ

- ✓ アイヌ独立・エコロジー運動時代は、アイヌや第三世界を革命主体と見る。
- ✓ 70 年代後半: どこでも「自然発生的決起」= 「原始共同体」が起こる × 辺境革命論
  - 背景にアイヌ運動関係者との対立や代行主義のジレンマ
- ✓ 生活様式の革命: 檜崎皐月の相似象学、桜沢如一の食養、坂本邁のマイナス科学、スピリチュアルに。
- ✓ 反西洋近代的だが人間の根源に自然的価値を認める点でヒューマニズム (疎外論)

### 2. エコロジー運動、さらに動物実験全廃運動への移行

- ✓ 80 年代初頭にエコロジー政党 (日本みどりの党) 結成の機運が高まる。太田も加入。
- ✓ ヒューマニズム批判、イデオロギー批判、「万類共尊」のスローガン、「宇宙大生命体」。ラディカルな議論によってヘゲモニー奪取。結局、太田も追放されて「日本みどりの連合」(みど連)を結成。
- ✓ みど連の下部組織「動物実験の廃止を求める会」(JAVA、機関紙『このいのちを絶つな!』)。動物実験全廃運動、倫理学者ピーター・シンガーの動物の権利論輸入。
  - 太田・栗原佳子の日本動物実験廃止協会 (機関誌『コンパッション』)、川口進のアニマルライツセンター、青島啓子の動物虐待防止会 (機関誌『動物ジャーナル』)、野上ふさ子の動物実験廃止・全国ネットワークおよび地球生物会議が分裂
- ✓ 環境保護・動物保護へと進むことで、近代文明批判はヒューマニズム批判へと展開

### 3. 太田竜のエコロジー思想と代行主義

- ✓ エコロジー法学 (自然代表) のアポリア: 代行の不可能性、万類共尊の独裁性、エコロジスト = 代表
- ✓ エコロジー: 自然に拝跪して懺悔する新しい「宗教」

### 4. 動物の権利論から「科学的」動物実験全廃運動へ

- ✓ 野上ふさ子と対立。JAVA から追い出される。地球みどりの連合 (後に地球維新連盟)、その下部組織として「日本動物実験廃止協会」(機関紙『コンパッション』)
- ✓ 動物の権利論 (JAVA) v s ハンス・リュージュ「科学的」動物実験廃止論 (日本動物実験廃止協会)
  - 動物の権利論 = 反ヒューマニズム : 動物解放で人間の健康を危うくする
- ✓ リュージュ『罪なきものの虐殺』(1978 年): 動物実験はサディズム・非科学、医薬産業利益が背景
- ✓ フーコー『臨床医学の誕生』を参照し、「人間の動物実験」に言及。国際金融資本陰謀論へ。
- ✓ 陰謀論とヒューマニズムへの回帰: 能動的ヒューマニズム → 受苦的ヒューマニズム

### おわりに——転倒するヒューマニズム

- ◇ 動物の権利派との理論闘争が陰謀論の転機 (地球維新連盟の 1990・1992 年選挙落選ではない)
- ◇ 動物実験問題を經由することで、陰謀主体が非人間化 (神 = 宇宙人 = レプティリアン)
- ◇ 太田の言説: 受苦的ヒューマニズムから受苦的アンチ・ヒューマニズムへ
  - 権利の廃棄 = 「私たちが、動物や地球上の全衆生に大してなすべきことは、分かち合うこと、ゆずること、人間の生活圏 (人間の数、人口も含めて) を削ること、減らすことなのです」